

世界の人々を迎えるにあたって - 糸魚川ジオパークの取り組み -

Preparation for welcome people from abroad to Itoigawa Geopark

竹之内 耕 [1]

Ko Takenouchi[1]

[1] 糸魚川・フォッサマグナ博

[1] Fossa Magna Museum, Itoigawa City

昨年10月に世界ジオパーク申請候補地になった糸魚川ジオパークの取り組みについて紹介する。12月に世界ジオパーク申請書を提出した。

<糸魚川は日本列島の縮図>

糸魚川ジオパークは、フォッサマグナや糸魚川 - 静岡構造線で代表されるような島弧の形成過程がテーマである。日本海拡大以降の列島形成期だけでなく、古生代のヒスイ・変成岩・付加体、中生代の堆積物・花崗岩などに代表されるように島弧の土台形成期をあわせて見学できる。日本列島形成の5億年間の縮図が、糸魚川ジオパークにある。

<ジオへいざなう多くの扉>

一方で、ジオパークに欠かせない要素である動植物や登録文化財、ジオと関係した地域特有の文化が数多くある。すなわち、来訪者が容易にジオの世界へ入っていける扉が多い。たとえば、海岸から標高2766mの小蓮華山まで3000m近い高度変化があり、それに対応した植物の垂直変化、動物のすみ分けがある。長者ヶ原遺跡・寺地遺跡（ともに国指定史跡）は、ヒスイ製玉類や蛇紋岩製磨製石斧を生産した縄文時代の遺跡であり、世界最古のヒスイ文化を担った。また、松本街道（国指定史跡）は、別名「塩の道」と呼ばれ、越後と信州の交易路であり、糸魚川 - 静岡構造線に沿ってできている。このほか、地すべりと棚田、活火山と温泉・砂防、お酒と地下水など、導入の話題には事欠かない。

<糸魚川ジオパークの仕組み>

ジオパークは、ジオツーリズムで示されるようにモノとヒトからなるシステムであり、来訪者を満足させる仕組みや仕掛けが必要である。市民が積極的に取り組めば、地域振興につながる装置でもある。

(1) 24のジオサイト

糸魚川ジオパークは、24のジオサイトを含み、それぞれのジオサイトには、複数のジオポイント（観察地点）がある。日本列島形成を示すジオポイントを来訪者にわかりやすく示すため、テーマをもった24のジオサイトを設定した。たとえば、弁天岩ジオサイト（海底火山噴出物と北前船文化）、月不見の池ジオサイト（巨大地すべりと棚田・石仏めぐり）などである。これらのジオサイトをいくつか巡り、糸魚川の魅力を満喫してもらいたい。複数のジオサイトの設定は、リピーターの獲得にもつながると期待される。

(2) インフラの整備

ジオに関する博物館が2館あり、そのうち、フォッサマグナミュージアム（1994年）がジオパークの情報センターの役割を果たし、青海自然史博物館（1996年）が糸魚川ジオパーク西部のビジターセンターの役割を果たす。ジオサイトには、遊歩道・案内標柱・野外解説板・リーフレットが準備される。英語の情報は、7つのジオサイトからはじめ、順次24まで広げていく。

(3) 教育プログラム

博物館の開設以来、市民に対する教育普及活動が行われてきた。地学ハイキング・講演会・動植物観察会・実験や体験学習であり、学校教育との連携授業や公民館・団体への出前講座もある。これらのノウハウは各ジオサイトのガイド養成講座に役立っている。ガイドの質を高めるため、検定制度の実施も考えている。また、ジオサイトを担う地域・団体が修学旅行の受け入れを積極的に行い、教育プログラムと受け入れ態勢が整っている。

(4) 交通

マイカー以外の公共交通機関は、JR、バス、タクシーがある。糸魚川駅前には、観光案内所があり、糸魚川ジオパークの情報が提供される。今のところ、個人旅行者用のガイドは予約制でスタートする予定である。また、春季から秋季には、ジオサイトをめぐる3コースの定期観光バス（ガイド付き）があり、冬季は1コース用意されている。

(5) 市民のバックアップ

農林水産団体、商工団体、観光団体、大学、地元専門家、教員、市民、行政などからなる糸魚川ジオパーク協議会があり、総務企画部会・ツーリズム部会・教育研究部会・地域ジオサイト協議会をもつ。ここには、市民が自主的に結成した糸魚川ジオパーク推進市民の会も参加している。市民の会は、自主的な学習会・交流会・ガイド養成講座を行っている。

<世界ジオパークを糸魚川の飛躍に>

1987年以降、ジオや自然・文化を使った地域おこしが糸魚川で行われてきており、ジオパークの下地はすでにあった。世界ジオパークをめざして、世界の人々を迎えるための改良がおこなわれている。ジオパークを日本に根付かせるためには、世界ジオパークになった日本の地域が成功例を示すことにある。チャンスをものにしようと、糸魚川市民が自主的に取り組んでいる姿に手ごたえを感じている。